

奈良・平城宮跡

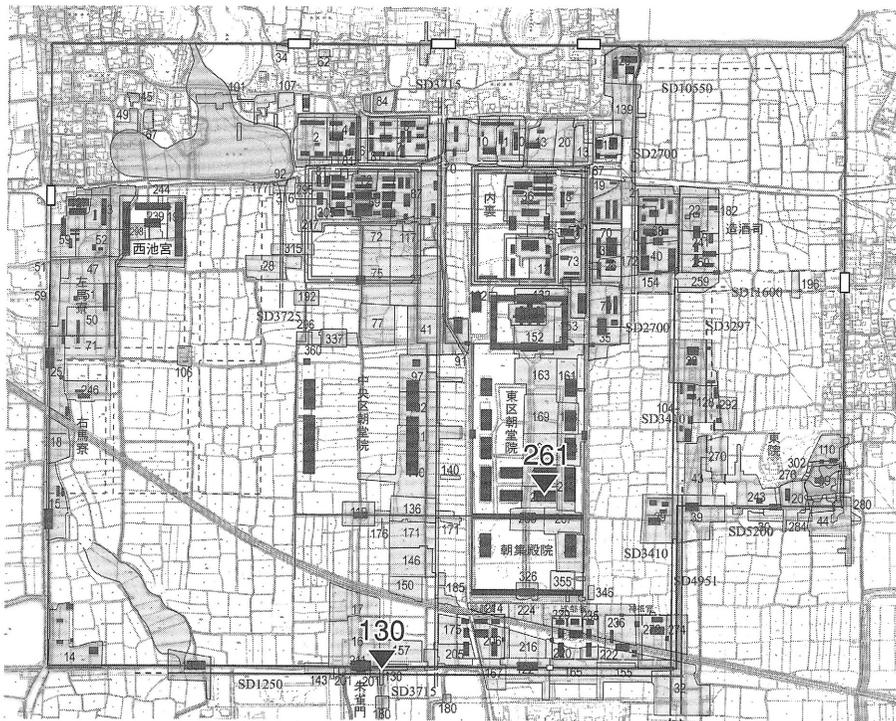
へいじょうきゅう

- 1 所在地 一 奈良市二条大路南三丁目、二 同佐紀町
- 2 調査期間 一 第一三〇次調査 一九八一年(昭56)六月～七月、二 第二六一次調査 一九九五年(平7)一〇月～一九九六年一月
- 3 発掘機関 奈良国立文化財研究所平城宮跡発掘調査部
- 4 調査担当者 一 代表 岡田英男、二 代表 町田 章
- 5 遺跡の種類 宮殿・官衙跡
- 6 遺跡の年代 奈良時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要
以下の二件は、本誌に未掲載であったことが判明したため、ここに報告する。

一 第一三〇次調査

本調査は、朱雀門東側の南面大垣復原整備工事に伴う事前調査として実施されたものである。調査区は、大垣部分を調査した北調査区と、奈良時代の溝二条を検出した南調査区からなり、調査面積はあわせて五六〇㎡である。木簡は南調査区から出土した。

東西溝SD一二五〇は、幅三・五m深さ〇・二～〇・六mを測り、二条大路北側溝にあたる。南北溝SD九九二〇は朱雀大路東側溝に



平城宮跡発掘調査地点図

左辺割れ。裏面は偏の残画のみ残り、二文字目は人偏であろう。

二 第二六一次調査

(1)



125×102×13 065

上下両端は切断。左右両辺も切断と判断したが、自然の割れの可能性もある。また、加工と墨書の前後関係は不詳。

9 関係文献

奈良国立文化財研究所『昭和五六年度平城宮跡発掘調査部発掘調査概報』（一九八二年）

同『一九九五年度平城宮跡発掘調査部発掘調査概報』（一九九六年）

同『平城宮発掘調査出土木簡概報』一五、三三（一九八二年、一九九六年）

（山本 崇）